週刊 愛知民報
2021年 1月24日 第2522号

発行所 愛知民報社
〒460-0007 名古屋市中区新栄三丁目12番25号
愛知あかつき会館内
☎(052) 251-2925 FAX(052) 261-6063
定価 月 400円 郵送料168円 1部 100円
毎週日曜日発行（第5日曜日は休刊）
1966年7月31日第三種郵便物認可

核兵器禁止条約 1月22日発効

新時代開く リモート対談

国会

父親が長崎で被爆
日本共産党衆議院議員（比例東海）
もとむら伸子さん

名古屋

自身が広島で被爆
名古屋大学名誉教授・物理学者
沢田昭二さん

1月22日の核兵器禁止条約発効を前に、被爆者で物理学者の沢田昭二さんと、被爆2世の、もとむら伸子日本共産党衆院議員（比例東海）が、名古屋―国会間をインターネットで結ぶ"リモート対談"をしました。（司会：村瀬和弘本紙記者）

総選挙で条約に参加する 新しい政権をつくろう

倒壊した家の下敷き 母助け出せず焼死

もとむら　沢田先生とは昨年10月、菅首相の日本学術会議会員任命拒否の撤回を求めていっしょに街頭演説させていただきました。

今日は、核兵器禁止条約発効の対談よろしくお願いいたします。まず、被爆体験をお聞かせください。

沢田　私が広島で被爆したのは中学2年生の時です。病気で学徒勤労動員に行くのをやめて自宅で寝ているときに被爆して、倒壊した家の下敷きになりました。這い出した時、原爆で破壊された広島中の家屋の端切れが上空を覆って朝の太陽光線をさえぎって、あたりは暗闇でした。

同じ部屋で下敷きになった母を助けようとしている間中、母は下敷きになった家屋に火の手が上がる中で、私に、「世界で役立つ立派な人間になれ」と言い続けました。3日後にようやく焼け跡に入ることができ、母の骨を見つけて母の実家に持ち帰りました。3日間、弟を探して地獄のようになった広島中を歩き回りました。

もとむら　私は、被爆2世です。父が長崎出身で、あと1カ月で5歳になる時に神社で遊んでいた際に被爆しました。父の弟は、原爆の光線を正面から浴びてその年のうちに亡くなりました。

被爆当時、皮膚がケロイド状になった被爆者の方々が街中にさまよっていたそうです。私は被爆2世として、核兵器廃絶を政治活動の柱にしています。

沢田　物理学を学んでいた広島大学3年生のときの1954年3月1日、ビキニ環礁でアメリカの水爆実験によって第五福竜丸被ばく事件が起きました。

私たち学生は、「核戦争になったら物理学が人類絶滅の道具をつくることになる」と、広島中を探して被爆写真を集め、8月6日平和記念公園で原爆展を開きました。

国鉄労組が、中国地方の各地にこの原爆パネルを運んで原爆展を開いてくれ、最後に広島市の原爆資料館の資料になりました。

「核兵器は悪」の国際世論強くなる

もとむら　昨年8月6日の広島の平和記念式典に、志位和夫委員長とともに参列しました。当時、安倍首相の時でした。私たち日本共産党は、日本政府に核兵器禁止条約にサインするよう強く求めています。その時点で40カ国が禁止条約を批准し、発効の50カ国まであと10カ国に迫っていました。

沢田　昨年12月には51カ国になりました。私たち被爆者がアメリカやヨーロッパに出かけて核兵器廃絶の運動を世界に広げました。2017年7月に世界の3分の2に近い122カ国がニューヨークの国連本部に集まって核兵器禁止条約を制定しました。

国際紛争の解決に武力を使わないとした国連憲章から72年、市民運動と連携した国々が国連の多数になって核兵器保有国の反対をはねのけて「核兵器は悪」という条約を制定しました。

国連は核兵器保有国が支配してきた安全保障理事会から、武力によらない国連憲章の立場に立ち戻りました。

もとむら　国際社会に被爆の実相を訴えるなど被爆者の方々の声が世界に届きました。国連はヒバクシャ運動を「平和のクリエーター」と評価しました。

20世紀に、植民地体制が崩壊し100を超す主権国家が誕生した世界の構造変化です。核保有国のアメリカでも若者の7割が「核兵器は必要ない」と答えています。米国民とも力を合わせられます。

米国べったりただす 共産党の躍進に期待

沢田　唯一の戦争被爆国として、1月22日に発効する核兵器禁止条約を批准する日本政府がほしい。これが被爆者の願いです。

もとむら　被爆者の方々の思いを実現していくことが被爆2世としての使命と思っています。今年は必ず総選挙があります。菅政権を倒し、核兵器禁止条約を批准する新しい政権をつくるためがんばります。

沢田　アメリカべったりの政治をただす日本共産党の躍進に期待します。